

盛夏の干潟

■夏の生物たち

盛夏となり、干潟の生物は活発に活動している。強い日差しの下、ウェビング（鋏脚を振り上げる行動）をしているコメツキガニやチゴガニ、水中から目だけを出しているヤマトオサガニ(Fig. 1)、移動するアシハラガニ(Fig. 2)が観察された。



(Fig.1 ヤマトオサガニ)



(Fig.2 アシハラガニ)

■イシガレイは海へ？

先月まで多くの稚魚が採集できた河口域であるが、今回の調査では5匹しか採集できなかつた。河口域で採集した稚魚(Fig. 3)の全長はtable. 1にあるが最大で8.5cm、平均で6.5cmである。これまでの調査で8cm程度に成長した稚魚は外海へ出ていくと思われるが、今回の大きさはそれより小型である。例年より小型の稚魚が外海に出て行ったのであろうか？

先月まで少数の稚魚しか採集できなかつた干潟内であるが、今回も3匹が採集できたのみである。これまでと同様に干潟内の稚魚は河口域で採集した個体よりも大きい傾向が見られた(Fig. 4)。なお、一般に「左ヒラメの右カレイ」と言われ左側に目があるのがヒラメだとされるが、イシガレイでは左側に目がある個体も存在する。

河口域の稚魚 (平均6.5cm)	5.5cm(2匹) 6.0cm 7.0cm 8.5cm
干潟内の稚魚 (平均8.5cm)	7.5cm 8.5cm 9.5cm



(Fig.3 河口域の稚魚)



(Fig.4 干潟内の稚魚)

(Table.1 稚魚の全長)

■他の生物たち

河口域では下の写真のように様々な生物が観察された。干潟内ではマルタウグイ、ヒラメ、ヒメハゼが観察されたが河口域と比べると種類・個体数ともに少ないように思われる。



(Fig.5 ヒメハゼ)



(Fig.6 ネズミゴチ)



(Fig.7 ヒラメ)



(Fig.8 クロダイ)



(Fig.9 マルタウグイ)



(Fig.10 ビリンゴ)
(佐藤 賢治)